

11月18日、貨物鉄産労九州地区本部が小倉車両所において、日貨労から脱退した21歳の仲間を新たに迎え入れた。貨物鉄産労九州地区本部では8月につづく日貨労からの組織拡大である。良識ある日貨労組合員が、ますます組合員不在のJR総連・日貨労の運動に見切りをつける動きが加速するか？！

貨物鉄産労・九州地区本部

日貨労から21歳の青年を組織拡大！

加入した仲間を歓迎！

なぜ今スト権確立？良識ある組合員は「違和感」を感じるはず

日貨労は、年末手当交渉に向けた動きの中で、スト権確立について職場討議をさせている模様。交渉に向けた職場討議資料において、「いつでも・どこでも・どこからでも闘える体制づくり」と「ストライキ権確立の課題は職場闘争の強化」の方針を掲げている。2017春闘におけるJR東労組同様のスト権確立に向けて、スト権の課題を明確にし、武器としてストを決行するという課題提起がなされている。

国鉄時代に、国民・利用者に散々迷惑をかけたストライキを、なぜ今チラつかせるのか。JR発足の歴史的経緯に鑑みれば、いたずらに労働者の権利だけを優先させて経済・社会を不安定化させる運動は、理解を得られるはずもない。

政策課題の前進には風通しの良い労使関係が不可欠！

JR連合は、貨物鉄産労とともに、JR貨物の経営安定化にむけた政策課題の実現に全力で取り組んでいる。2018年度税制改正について、JR貨物に関わる「軽油引取税の特例措置」、「高性能機関車・コンテナ貨車にかかる固定資産税の特例措置」の継続を求めて関係省庁に要請行動を行っていく。

JR貨物の経営安定化にむけた政策課題の前進に向けては、風通しの良い組織と労使関係の構築が極めて重要である。

組合員と家族の幸せ、政策課題実現を目指す
JR連合・貨物鉄産労に結集しよう！